

## ワークショップ 2

### 薬剤による消化管傷害の病態研究の進歩と最近の疾患の傾向と対策

司会 天野 祐二（新東京病院内視鏡センター）

天ヶ瀬 紀久子（立命館大学薬学部病態薬理学研究室）

薬剤性消化管傷害は従来 NSAIDs 起因性が主体であったが、近年では超高齢社会とともに抗血栓薬によるものが急増するほか、抗癌剤、PPI、抗菌薬、ビスホスホネート製剤など原因薬剤は多岐となり、時に重篤な臨床症状を招く結果となっている。本ワークショップでは、薬剤性消化管傷害におけるその病態研究および最近の傾向と対策など、基礎および臨床研究の領域から幅広く演題を募集し、病態解明の進歩さらには今後の方策についての議論を期待したい。